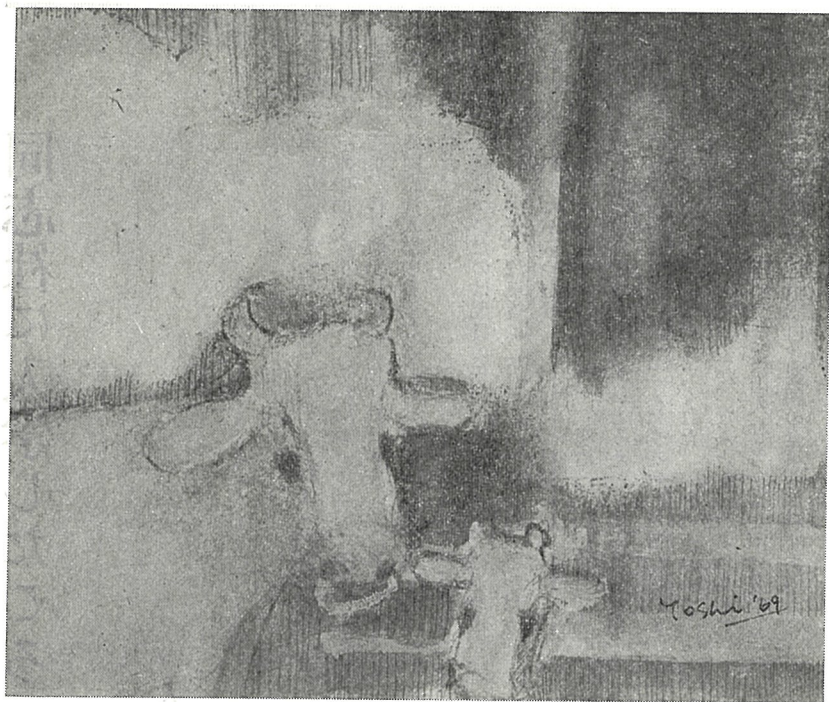




え と 文

有 岡 良 子

山 田 牧 場

長野県・南志賀高原にある山田牧場は、夏になると下の農家から草を食べにやって来る牛たちでいっぱいになる。ふせがちの大きな眼はいつもあらぬ方を眺め、時々、しっぽでハエを追っばらうぐらいのもので、どっしりかまえている。わたしはそんな牛が好きだ。絵にするとそのかたちもいい、顔のかたち、耳のつき具合、眼の位置、それにあの岩のかたまりのような胴体のえがく曲線が格別いい。夢中になって、同じポーズを幾枚もスケッチしてしまうことである。

そういう訳でわたしの絵にはよく牛が登場する。しかし、その牛はあの牧場の牛ではない。それはただ〃色のオーケストラ〃の一員である。キャンバスに置かれたレモンイエローは隣りのバイオレットグレーを生み、一本の線が他の線を決める。色が鳴り、線が鳴り出すのである。そして、牛たちも一緒に。……

わたしは、無限に広いキャンバスのなかで終日遊んでいたいと思っている。

(昭44文卒・画家)